

成果報告書（概要版）

| | |
|----------------------|---|
| プロジェクト名 | 高香味泡盛の開発 |
| 研究背景 研究目的 及び目標 | <p>（研究背景）</p> <p>泡盛関連産業は県内食品製造業の1つの大きな柱であり、今後も継続的な発展を目指していくことは、業界のみならず県全体の産業振興のために不可欠である。実際、県の「沖縄振興推進計画」（平成14年12月）においても、泡盛産業は「オキナワ型産業」として、戦略的・重点的な産業に位置づけられている。</p> <p>近年の泡盛市場を見ると、沖縄ブームなどの追い風もあるが、県内需要の頭打ち、5年後の酒税軽減措置終了、競合商品である焼酎の隆盛など、非常に厳しい環境におかれている。一方、昨今の消費者の嗜好は、標準化された横並びの品質から個性的な本物志向へと移り変わっており、市場の支持を得るためには、「個性化」すなわちバラエティに富んだ商品群を市場に出すことが重要となっている。従って、泡盛が日本国内での認知度をさらに上昇させ他の酒類に対する競争力をさらに高めるには、個性ある泡盛を数多く商品化することが必要であり、これを支える新たな技術の確立が緊急的な課題となっている。</p> <p>（研究目的及び目標）</p> <p>本事業では、泡盛の個性化技術開発の一つとして、新たな高香味泡盛製造技術の確立に取り組む。具体的には、泡盛製造過程における微生物の香気成分への関与を科学的に解明し、泡盛製造への応用を試みる。また、新たな製造技術について実験室規模からパイロット規模、実機規模へとスケールアップする取り組みを行い、実際に現場で利用できる高香味泡盛製造技術を確立することを目標とする。</p> <p>（株）トロピカルテクノセンターでは実験室規模でのこれまでの取り組みの結果、泡盛の重要な香りの一つであるバニリンの含有量高める泡盛製造法として、新規な黒麹菌や酵母などを用いた技術を保有している。</p> <p>本事業ではこれらの技術について、実機への応用について詳細に検討し、短期間で実用化が可能な技術の選抜、および製造条件の至適化を試みる。その結果として、香味成分の一つである「バニリン」に注目した高香味泡盛の製造技術の確立を目指す。</p> |
| 成果概要 | <p>本研究開発により、次のような成果を得ることができた。</p> <p>（1）酒質分析法の検討</p> <p>市販泡盛の香味成分を分析した結果、バニリンは一般酒と比較して古酒の方が約3倍高かった。これは、熟成によるバニリンの増加を示唆している。</p> <p>市販泡盛 52 銘柄について、香味に関する9成分について分析を行ない、系統解析を行なった結果、熟成期間の異なる「一般酒」と「古酒」を香気成分の特性から明確に区別することができた。従って、今回検討した解析技術で、熟成による特徴的な泡盛の成分変化を検出で</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>きたと考えられる。この手法をさらに検討することで、泡盛古酒化のしくみを解明する一助になると考えられる。</p> <p>(2) 実験室規模での検討</p> <p>香味関連成分を高含有する泡盛醸造技術として、(株)トロピカルテクノセンターで保有する3つの新たな技術、新規黒麹菌、混合培養法、新規泡盛酵母について、それぞれ実用化を詳細に検討した。まず実験室規模で、さまざまな条件での醸造を行い、目的の効果が得られる最適な醸造技術を検討した。さらに、実機規模での試製により明らかになった課題に対して、その都度、実験室規模での検討による詳細な分析をおこなった。</p> <p>(3) 実機規模での検討</p> <p>3つの新たな技術について実用化を詳細に検討した結果、新規泡盛酵母を用いた技術が最も短期間での実用化が可能であることがわかった。そこで、新規泡盛酵母を用いた実機試製を繰り返し行い、醸造条件の最適化を行った。最終的に市販泡盛の平均の10倍以上という極めて高濃度のバニリン前駆体を含有する泡盛の製造に成功し、さらにこの物質のバニリンへの変換を確認した。従って、本事業での最終目標である「バニリンを高含有する新たな高香味泡盛を製造する技術」を確立することができた。</p> <p>本事業では、バニリンの前駆体の濃度を顕著に高めた泡盛の製造に成功した。今後、忠孝酒造株式会社において、実製造に向けた取り組みを行うとともに、消費者にこの特性を十分アピールできる販売戦略を策定中である。新商品の発売開始時期は2007年度内を予定している。</p> |
| 連絡窓口 | <p>株式会社トロピカルテクノセンター（担当：研究開発課 渡嘉敷唯章）</p> <p>連絡先 tel 098-982-1100</p> <p>fax 098-982-1101</p> |

(注) 成果報告書(概要版)はA4用紙1~2ページ程度とする。